

オオワシ

Haliaeetus pelagicus

タカ科・冬鳥

名前の由来

オオワシは「大きい鷲」の意。ワシは悪い鳥なので「悪し(あし)」から、車輪状に飛ぶので「輪如(わし)」から、動きが敏捷なので「捷(はし)」から、など諸説ある。

漢字名：大鷲



オオワシ

特定種

文化財保護法：天然記念物

種の保存法：国内希少動植物種

国レッドリスト(2007)：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

北海道レッドデータ：絶滅危惧種(En)

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)オス88cm、メス102cm、翼を開いたときの端から端までの長さ220~245cm。トビよりずっと大きい、日本最大のワシ。翼は長くて幅広く、飛んでいるときには後縁がふくらんで見える。

黄色く大きなくちばしと、くさび型の白い尾が目立つ。成鳥では翼の前面が白色で、とまっている時は肩が白く見える。他の部分は黒褐色(細かく見ると額や腿のところも白い)。

声：ずっと鳴いているようなことはないが、警戒するときには「カッカカッ」と鋭く鳴き立てる。また、争うときなどには大声で「ガッガッ」とか「キャッキャッ」などと鳴いたりするという。

飛び方：ゆっくりと羽ばたき、時々滑空もしながら直線的に飛ぶ。翼を広げて円を描くように飛ぶこともある。

魚を捕るときには、海や湖の上空を旋回し急に高度を下げ水面に舞い降りて捕らえたり、低空を旋回したり直線的に飛んでそのまま降下して捕らえたりする。

類似種と区別点：オジロワシ。

オオワシの幼鳥や若鳥はオジロワシに似るが、オジロワシよりくちばしが大きく、尾も長く明瞭なくさび型。

オジロワシの尾は短くくさび形。



オオワシ。白く長い尾、白い肩(翼前縁)、長く幅広い翼



オジロワシ。白く短い尾、小さめのくちばし、四角っぽい翼



生息環境・分布

主に海岸や河口、海に近い湖沼で越冬する。十勝には11~3月にくる冬鳥。

分布：オホーツク海北部の沿岸域やカムチャツカ半島のみで繁殖する。冬は南下して、カムチャツカ半島南部、朝鮮半島、日本で越冬。中国南部やヤクーツク、アラスカまで移動するものもいる。

日本では冬鳥として本州中部以北に渡来し、越冬する。北海道には冬鳥として全道の沿岸などに渡来するが、山地の沢沿いにも渡来する。

十勝には冬鳥として主に沿岸~下流部に渡来するが、新得など山地の川沿いや湖沼などにも渡来する。千代田新水路に、迷い込んだ魚をとりに来ることもある。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期	■										■	
サハリン以北(繁殖期)			■									

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原)
鳥類
シタタビ
樹林

食性・他生物との関わり

主に大型魚類。カモなどの水鳥やウサギなどの中型哺乳類を捕食する事もある。

とまり場から飛び上がり、海や湖の上空を翼を広げて旋回し、あるいは低い高度を旋回したり直線的に飛んだりして、

急激に高度を下げて水面に舞い降りて魚を捕らえる。繁殖分布が太平洋から遡行するサケの分布域と一致する。捕食者であり、食物連鎖の頂点にたつ種のひとつ。成長してしまえば他の生物に襲われることはあまりない。

繁殖生態

日本では基本的に繁殖を行わず、オホーツク海北部の沿岸地域やカムチャツカ半島でのみ繁殖する。

アムール川下流域で、3月末から4月始めにかけて渡来し、一夫一妻で繁殖する。

巣を中心としたなわばりを、つがいごとに持つと考えられている。

海や湖の近くの森林や沿岸の崖で繁殖する。カムチャツカではダケカンバ林で営巣している。営巣地は魚の捕れる海岸、サケ類の産卵する河川や湖の周辺など。

巣は展望が開けた針葉樹の枝の上や、海岸・湖岸の岩の上に作られる。皿形で、直径3m高さ2mに達するものもあるという。

1～3個卵を産み、34～36日でヒナがかえる。ヒナは全身灰白色の幼綿羽に覆われている。

6月中旬にふ化したヒナは8月下旬、遅いものは9月に巣立つという。



十勝川河口付近のオオワシ。北海道には冬やってくる

興味深い話

■オオワシはサケ・マス類を主食としていて、繁殖分布が太平洋から遡行するサケの分布域と一致するという。

■名前のおお、日本では最大のワシ。

■世界的にみるとオジロワシがヨーロッパとアジアの亜寒帯・温帯に広く繁殖分布するのに対して、オオワシは分布が非常に狭く、繁殖地はロシアオホーツク沿岸・カムチャツカやサハリン北部などで極東に集中している。

■世界全体のオオワシのうち70%がカムチャツカ半島南部と北海道で越冬するという。

■冬には明確ななわばりを持たず、魚が豊富な時期には同じ水域に数百羽が集中することもあるという

■越冬期にはいつも決まった樹木や岩崖を集団でねぐらと

する。

■餌不足の年には、先に生まれたヒナが後に生まれたものを襲い、くちばしで頭をつつき、頭をくわえて巣の中を引きずり回すという。

■越冬期の餌が十分な場合には、どのつがいもうまく繁殖に入り、産卵数も最大数に近く、有精卵となるという。

■オジロワシほど内陸に入らないが、最近ではシカ猟後の放置された死体を食べに、山間部へも飛んでくるようになったという。

■十勝でのアイヌ語名は不明。

配慮事項

シカ猟後の残された死体につく事があり、銃弾による鉛中

毒などが懸念されている。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)
「日本動物大百科 第3巻 鳥類I」日高敏隆監修、平凡社 1996

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「図鑑 日本のワシカ類」森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男、文一総合出版 1995
「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. II」清棲幸保、講談社 1978

花輪伸一・柚木修・山田元一郎・V. M. Khrabryi・E. P. Sokolov・S. I. Fokin・V. B. Masterov (1989) ソ連極東ウデイル湖岸におけるオオワシの繁殖生態. Strix, 8 : 219-232.
Lobkov, E. G. (1991) カムチャツカのオオワシ—明らかにされた繁殖生態 (進士古径訳). アニマ, 231 : 76-83.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 花

(外来種) 花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ